



福島南ロータリークラブ

基本方針:ロータリーを实践しみんなに豊かな人生を

事務局/〒960-8151 福島市太平寺字通吹 6-2 ザ・36・メイファイブ 1F2号室
tel. 024-546-3793 fax. 024-545-7878
例会場/サンパレス福島 〒960-8101 福島市上町 4-30
tel. 024-523-3811(代) fax. 024-523-0375
HP アドレス <http://www.inaka.ne.jp/f-southrotary/index.html>



- 会長：大野順道 ■幹事：金子親房
- 会報委員長：丹治洋子 ■副委員長：佐藤朋也
- 委員：中央清和 菅野良二 吉田仁一 渡辺勇

第35回例会

平成26年3月26日(水) サンパレス福島

■会員/73名 ■出席/50名 ■出席率/68.49% ■メイクアップ/23名 ■修正/73名 ■修正率/100%

本日のプログラム

- 1 開会点鐘
- 2 新入会員入会式
- 3 来訪者紹介と会長挨拶
- 4 米山奨学生奨学金授与と挨拶
- 5 創立記念スピーチ
- 6 閉会点鐘
- 7 創立記念懇親会

会員の広場

26.4.1 福島民報 渡辺健寿会員

福島市民らが毎月開催している法学ゼミナール「葦の会」の平成25年度最終講座は3月29日県文化センターで開かれた。25年度は「市民の為の法律—刑法を読む」をテーマに33人が受講した。最終講座は窃盗や強盗、詐欺、恐喝、横領などの財産犯の分類を知り、暮らしに身近な事例を法律的視点で考えた。

今日の一面記事

私達の支援で出来ること

- ・安全な出産…月2000円(1日あたり70円)ご支援があれば毎月、助産師が介助する安全な出産2回分の支援に変わります。
- ・予防接種…月3000円(1日あたり100円)ご支援があれば毎月3つの感染症(破傷風、百日咳、ジフテリア)の混合ワクチン214回分が変わります。

◆新入会員入会式◆

入会証書バッジ他授与



大野順道会長より新会員となられた三瓶弘樹会員にロータリーのバッジおよび7つ道具が手渡されました。

◆会長あいさつ◆

大野 順道 会長



それでは、お客様をご紹介します。米山記念奨学生 江 沛勲くんです。本日が米山奨学生としての最後の例会となりました。1年間勉学に励まれ、また、ロータリーの行事に数多く参加して頂きました。ロータリーのこと、日本のこと、そして福島の今を沛勲くんなりに、知ることができたかと思います。今後とも健康に留意され、日本と台湾のかけ橋のひとつとなれんことを期待致します。また、伊藤紘一委員長には、江 沛勲くんのサポートを1年間して

いただき御苦労さまでした。さて、新しく会員となりました、三瓶弘樹会員おめでとうございます。新しい出会いと奉仕の場によるこそ。今後のロータリー活動にご期待致します。改めまして、皆さん こんにちは。今日は、創立記念夜間例会です。創立43周年の記念例会が、ここに開催できますことは、その時代、その時代の会員が、ロータリー活動を行ってきた賜物です。先輩諸氏と福島南ロータリークラブの会員に敬意と感謝を表します。ロータリーが産声を上げたのは1905年(明治38年)2月23日、今年で109年になりました。時代に先んじ、また時代に対応していくために、歴史的スピーチや文書、多くの決議がなされてきましたのが、現在の国際ロータリーであります。福島南ロータリークラブも、50周年、100周年に向けて、時代に対応していかなければならないと思います。ニーバーの言葉があります。「神よ 変えることのできるものについて、それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。変えることのできないものについては、それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを、識別する智慧を与えたまえ。」(翻訳者 大木英夫)

変えることはできますが、変えてはいけな

もある。また、変えなくてはいけないこともあります。それを皆さんと見極め、実行していくことにより、より良いロータリークラブを目指していけたらと思います。喜寿、古希、還暦を迎えられました皆さん、おめでとうございます。益々のご活躍を祈念致します。例会後、会員皆さんが、懇親をより深められますようお願いしています。

◆米山奨学生奨学金授与と挨拶◆

奨学生 江 沛勲 君



皆さんこんにちは、米山奨学生、江 沛勲(コウハイケン)と申します。この度、スピーチの機会をいただきまして誠にありがとうございます。去年4月に福島南ロータリークラブ入ってからあつという間に一年が過ぎました。この一年間は私にとっては、非常に充実の一年間だと思います。

学校の学生として大学四年の勉強の集大成の卒業論文に取り組み順調に完成しました。卒業式に参加し人生のひとつの段階を終え、さらに程度の高い人生へと向かい次の段階を迎えます。また父と夫として、家庭の生計を維持するため、アルバイトをしながら子供を育て、子供の成長とともに自分の責任の重さを改めて認識しました。さらに米山奨学生としてクラブの皆様と付き合い、月の例会はもちろん研修旅行、地区大会、青少年問題の討論会など様々な活動に参加しました。それらの活動を通じて皆様と親しくなり、お世話していただきました。この恩義は感謝だけではなく、どのように恩返ししようかと考えております。

台湾には次のようなことわざがあります。「たとえ一滴の水でも受けた恩義は、湧き泉として報いるべき」と。これは台湾人にとって忘れないことです。つまり「滴水之恩、当似湧泉相報」では、どういう風に恩返しをするか。私の考えたことは、恩義を返すとともに日本の良さを次の若い世代に伝えていきます。それが私にとっての恩返しです。私は米山奨学金がなかったならば今、私はここに立っている私ではありません。この奨学金をいただいて私だけでなく私の家族も支えていただきました。このいただいたお金だけでなく、恩義をどのように次の世代に伝えるかどうかが、私の使命ではないかと、私は思います。今回の例会は最後ですが、皆様とのお付き合いは最後ではありません。今後のお付き合いもよろしくお願ひいたします。

◆創立記念スピーチ◆

ロータリー情報委員会

齋藤 浩 15代パスト会長



今日は当クラブ43回目の創立記念例会ですが、正確にはご存じの通り、昭和46年3月31日が創立記念日でございます。昭和の時代に入会された会員はたった10名となってしまいました。

いずれにしても、創立からはそろそろ半世紀も経ちますので当時のことを承知している会員、すなわち1年に1度も出て来ない幽霊会員を含めてチャーターメンバーは3名となってしまいました。勿論私は創立6年目に入会したのですからチャーターメンバーではございません。しかし私よりも前に入会された会員は全て退会されておりますので実質4番目に古い会員となってしまいました。

毎年この時期には創立記念例会が開催されてきたので、発足当時のことはこれまでに何度も語り尽くされてきた様に思われます。そんなことで私にスピーチの機会が与えられたものと思います。そこでかつてチャーターメンバーだった全会員と個々に直接話合って耳にしたこと、感じたことを正直にお伝え出来れば、責任を果たせるかなあと考えておるところです。クラブ誕生までには、当然のことながら紆余曲折があったそうです。

◆喜寿・古希・還暦のお祝い◆

○富田 健三郎 会員



幼少の頃から親父から先生から人生50年。今、努力しないと後悔するぞと言われて育ちました。まさか、古希という駅までたどり着けるとは思いもし

ませんでした。あとの時間少ないのでノーアウト満塁という気持ちで気軽に過ごしたいと思います。

○植木 洋司 会員

70歳に到達するは、古来、希なりといわれる年齢ですが、現在の我々の時代には全く当たり前の現状で良い時代に生きていると感じています。

○本田 光男 会員

今、楽しんでやっているのは「スポーツ少年団の子供達」とフェンシングをやっている時だと感じました。そのためにも週2回~3回「ウォーキング」をして体を維持していないといけないことも実感しています。

○関口 富美男 会員

私には孫が一人おります。お決まりですが、毎日「ジイジイ」と呼ばれている訳ですが、家内からも、子供たちからも「ジイジイ」と言われると、ちょっと不満かなと思いつながり毎日これが幸せなのかなあと考えております。

(担当 菅野)